

「大丈夫。あなたは一人じゃない。」
日本では、部活。クラブ。団体。連盟。
スポーツをする上では何かしらの組織に所属しなければなりません。しかし、もしもセクシュアリティが原因でこれまでの努力や実績が水の泡になったなら…。
他者からの心無い言葉によって本来ならば無かったはずのストレスに苦しめられる事になってしまったなら…。
「知られる事」を恐れるがゆえに
生きづらさを感じている人、
「知られた事」によって辛い思いをしている人は少なくないはずです。事実私もその一人でした。
だからこそ表に立つプロ競技者の一人として発信しなければならないと感じています。
「私たち LGBTQ+ は当たり前前に存在する。」という事を。孤独を感じているあなた。
辛い思いをしているあなたに伝えたい。
「あなたは一人なんかじゃない。」



菊池 真琴

プロボクサー

Kikuchi, Makoto

Professional Boxer

"YOU ARE GOING TO BE OKAY. YOU ARE NOT ALONE."

In Japan, we need to belong to an organization to play sports, such as schools, sports clubs, institutions and associations. And, what if all your hard work was ruined just because of your sexuality? What if you were distressed by heartless words from somebody? There may be some who are living in fear because they don't want to be "found out" - while there may be some who are struggling because they were "found out." I was one of them. Through my experience - as a professional athlete, I need to speak up about our existence. WE ARE HERE. And for those who feel lonely and those who are having a hard time, I want here to say "YOU ARE NOT ALONE" .

プロボクサーとして出発した私の挑戦。

女子プロボクシング界には、日本人世界チャンピオンが5人いることをご存知ですか？

「プロボクシング」この競技名を聞いた時、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。おそらく脳裏に浮かぶのは、リング上で上裸の男性同士が拳のみで殴り合い、顔面は腫れ上がり血がしぶく。そのような光景ではないでしょうか。その一方で、メディアではあまり取り上げられない場所で頂点を夢見て戦う女子プロボクサーたちがいます。筆者もその

一人。これから世界のベルトを獲得に行くために駆け出したデビュー前の女子プロボクサーです。では、冒頭の質問。「女子プロボクシングにおいて日本人世界チャンピオンが5人いることを知っていますか？」この問いに5人全員の名前を即答できる人は、私の経験上皆無でした。これこそが、筆者がこれから挑戦し、夢描き、駆け抜ける場所の現実です。

★アマチュアボクシング。東京五輪戦線の敗北。

「2020年東京オリンピック」は、筆者がボクシング競技を始めるにあたり全力で目指し戦い届かなかった場所です。ボクシングには「プロボクシング」と「アマチュアボクシング」という目的もルールも異なる2種類のものが存在します。

先ず「目的」の違い。プロの目的は世界チャンピオンになりベルトを獲得

剣道家でした。29歳の頃、大学剣道部の後輩が骨肉腫により命を落としました。長年闘病生活を強いられていた彼女が余命1ヶ月の宣告をされ、毎日彼女のもとに通い語り合いました。そんな中、いつも毅然としたプライドの高い彼女はこう打ち明けたのです。

「生きています。先輩。」
「活きたいです私は。」
家族にも誰にも言わなかった言葉でした。彼女の葬儀の後、私は自問自

問した。彼女の葬儀の後、私は自問自

年が、強くなったと一瞬錯覚するような感覚だったのかもしれない。はたまた、アイトルのライブを楽しんだ直後の少女が「私もアイトルになりたい！」と夢見る様なものだったのかもしれない。しかし、29歳の筆者は確かに自身の中で抑えきれない衝動が沸き立つ感覚を覚えました。

「オリンピック出場の可能性が1ミリでもある競技は何だろうか...」「これまで積み上げてきたものが活かせる



得ること。アマチュアの目的はオリンピックで金メダルを獲得することになります。

次に「ルール」の違い。プロは小さいグローブで長いラウンドを戦うもの。アマチュアは大きいグローブで3ラウンドという短いラウンドで多くのヒット数を戦うもの。大まかにこのように説明できます。ボクシングを始めたのはリオオリンピック開催直後の2016年。それまでは剣道を嗜んでおり、中学、高校、大学も剣道で歩んできた生粋の

答を繰り返しました。「自分は今活きているのだろうか...」何度考えても答えはNO。当時の私は、長年青春の全てを費やして来た剣道での目標を

見失い、ただ食べる為だけに働き、一瞬の快楽の為だけに生きる。「生きる」とは程遠い生き方をしていました。「活きなきゃ...」そう考え模索していた時、リオオリンピックでの日本人選手達の活躍を目の当たりにしました。「オリンピックに出てみたい。」テレビで格闘技の試合を見終えた少

競技は何だろうか...」

競技人口。競技性。連盟体制。剣道との類似点。どれを取っても可能性を感じる競技はアマチュアボクシングでした。思い立ったその日、「ただご飯を食べる為だけに働き生きる人間。」から「東京五輪を狙うアマチュアボクサー。」になりました。競技を始めて2年後、2018年12月、全日本選手権にて優勝を果たしました。その後は東京五輪強化指定選手となり、日本代表にも選出され、東京オ

リンピックに向けて順調に歩みを進めておりました。しかし2019年末、東京五輪国内代表選考会の決勝戦で敗れ、五輪の夢は散りました。

★プロ転向。再出発。

五輪戦線で敗れ、数日間廃人と化していた自分は3つの選択に迫られていました。1つは引退。2つ目はこのままハリ五輪を狙う。3つ目はプロ転向。何度か思いを巡らした末、出した答えは「プロ転向。」そこには理由があります。アマチュア時代。代表合宿の夜に仲間たちと語り合った時のこと「プロ転向する？」といった問いに対し、皆口を揃えて「プロでは食えていけない。」「世界チャンピオンになっても食えていければ意味がない。」と。

文の冒頭でも紹介した通り日本の女子プロボクシングは海外と異なり認知度が低いのが現状です。その為、世界と戦えるトップアマは4年周期で大量に引退します。女子日本代表からのプロ転向は筆者が5年振り。自分が道を開拓する必要を強く感じたのです。

世界と戦える多くの若きトップアマの職業選択の二つにプロが選択される未来を切り拓く必要があると。「3年以内に世界チャンピオン。そこから2年以内に米圏でトップスターを討つ。」最高峰の舞台で結果を残し、メディアやSNSで発信を続け、女子ボクシングの認知度を高めることが現在の自分の目的となっています。最後に...「私を応援してください！」とは言いません。このような競技があるという事を是非知っていただきたいのです。

山本シムプロボクサー 菊池真琴